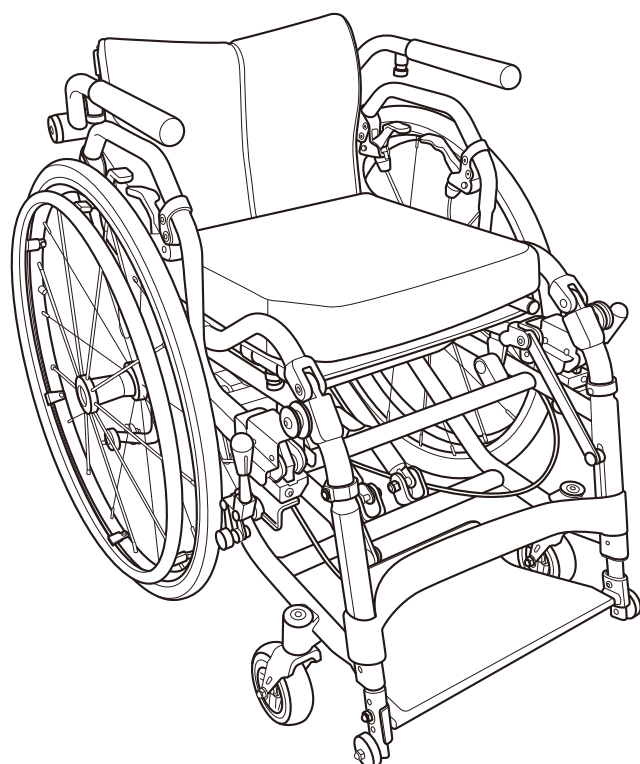


NOVA_RiseActive

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

目次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
座面の昇降機構について	6
各部のなまえ	7
使いかた	8
ブレーキのかけかた	8
乗り降りのしかた	8
駆動輪の取り外し・取り付け	9
転倒防止装置の格納	10
転倒防止装置のクリアランスの調節	10
座面の昇降のしかた	10
各部の調節のしかた	14
フットサポートの高さ調節	14
バックサポートの張り具合調節	15
使用上のご注意	16
保守・点検	16
お手入れ・保管について	16
飛行機に搭乗される場合	17
走行上のご注意	17
車いすの持ち上げかた	17
困った時には	18
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

はじめにご確認ください

本製品ご購入後にはじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- 車いす本体 1台
- ニーベルト（凸型パッド付）1ケ
- 取扱説明書（本書）
- 保証書

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。

使用者がハンドリムを操作して駆動する自走用車いすです。

日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

座面の昇降機能を装備しており、座位から立位まで、用途に合わせて使用者の姿勢を変えることができます。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

△危険



本製品は、自走用車いすに乗車しながら日常生活を行うことができる使用者向けにつくられています。はじめにお使いになる際は販売店やセラピストの指導のもと操作方法を習得し、本製品の特徴をよく理解したうえで使用してください。



座面の昇降は、両輪の駐車用ブレーキをかけ、ニーベルト（凸型パッド付）／胸ベルトを装着して、水平かつ平坦な場所で、車いすが安定していることを確認してから操作してください。車いすが予期しない方向へ動き出したり、座面昇降時に車いすから転落して、事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠危険

❗ 乗り降りは必ず座面を最下位まで降ろした状態で行ってください。座面が傾斜していると転落し、事故やけがにつながる恐れがあります。

⊘ スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



⊘ 座面の中位・立位時に、身体を必要以上に前方へ乗り出さないようにしてください。車いすが前方へ転倒し、事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

⊘ 乗り降りするときや空車時に、昇降レバー（橙）を操作しないでください。空車時にレバーを操作すると、座面が勢いよく跳ね上がり、事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 下り坂ではハンドリムを使ってスピードを落とし、ゆっくり走行してください。

❗ 自力で走行不可能な坂道では、介助者を伴ってください。

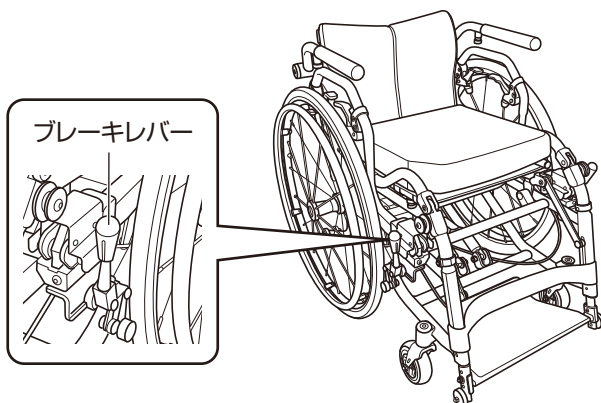
⊘ 乗車したまま、階段を下りたりしないでください。

⊘ エスカレーター（車いす対応エスカレーターを除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）でのご使用は絶対に行わないでください。転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

⚠警告

⊘ 座面の上昇時に、車いす移動の操作を行わないでください。

⊘ 乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



❗ 乗り降りの際および停止時、座面の昇降時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

❗ タイヤの空気圧の低下、摩耗に注意してください。タイヤの空気圧が低下したり摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。空気の補充をしてもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

⊘ アームサポート、プッシュアップバーを持って車いすを持ち上げないでください。アームサポートやプッシュアップバーのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

警告

- 

プッシュアップバーに、横方向へ過度な体重をかけないでください。また、プッシュアップバーをアームサポートとして使用しないでください。
プッシュアップバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- 

前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。
- 

走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒などの事故につながる恐れがあります。
- 

本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
- 

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

走行しながらアームサポート、プッシュアップバーの跳ね上げや、座面の昇降の操作等をしないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

駆動輪が抜けないようにしっかりとロックしてご使用ください。駆動輪の差し込みが不十分な場合、車輪のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる危険性があります。
車いすをお使いになる際は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜けないか確認してからご使用ください。
- 

[ハイポリマータイヤの場合]
クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。
充分注意して使用してください。

注意

- 

この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
- 

アームサポート、プッシュアップバー、フット・レッグサポート、座面の昇降機構の可動部に指や身体をはさまないように注意してください。
- 

アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。
- 

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

最大体重(積載物も含む)は100kgです。
体重制限を守って使用してください。
- 

走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

使用する前に駆動輪・キャスト・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。

⚠ 注意



フットサポートの下には足を入れないでください。

足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。



シンナー・ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。

製品を傷める恐れがあります。



暖房器具にタイヤを近づけないでください。

エアータイヤの場合、タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。

ハイポリマータイヤの場合、タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。



フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣類用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。



シャワーや入浴には使用しないでください。水分や湿気などにより故障する恐れがあります。

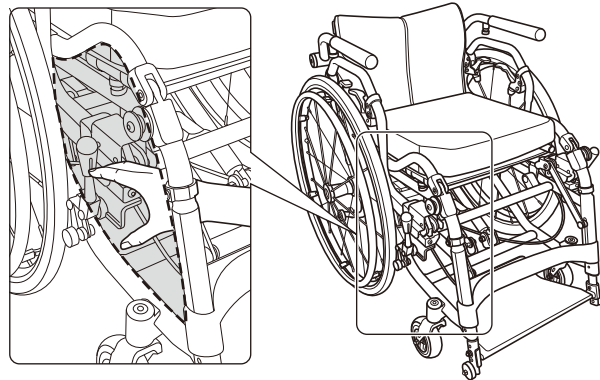


車輪・キャストを他のサイズや種類に変更しないでください。



フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。

けがをする恐れがあります。



段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。

車いすの破損や故障の原因となります。



本製品は特性上、一般的な車いすよりもフットサポートと地面の空間が狭く作られています。やむを得ず段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくりと操作してください。また、必要に応じて介助者を伴ってください。



車いすを自動車に乗せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。

車いすの破損や故障の原因となります。

座面の升降機構について

本製品は、座面の升降機構を装備しています。

車いすの座面を任意の高さに設定し、使用することができます。

本書では、座面高の違いによる姿勢の状態を、それぞれ次の名称で説明します。

座面の升降のしかたについては、該当ページをお読みください。

(P.10「座面の升降のしかた」参照)

〔 座位 (ドライビングポジション) 〕

通常の車いすと同じ状態です。

日常の車いすによる移動や、乗り降りはこの状態で行います。

※本書では、座面を最も下げた状態を「最下位」と表記します。

〔 中位 (アクティブポジション) 〕

座面を持ち上げた状態です。

従来の乗車姿勢では不可能な高所での作業や、視点を高くしたいときなどに使用します。

駐車ブレーキをかけ、ニーベルト (凸型パッド付) / 胸ベルトを装着して、水平かつ平坦な場所で、車いすが安定していることを確認してから操作してください。

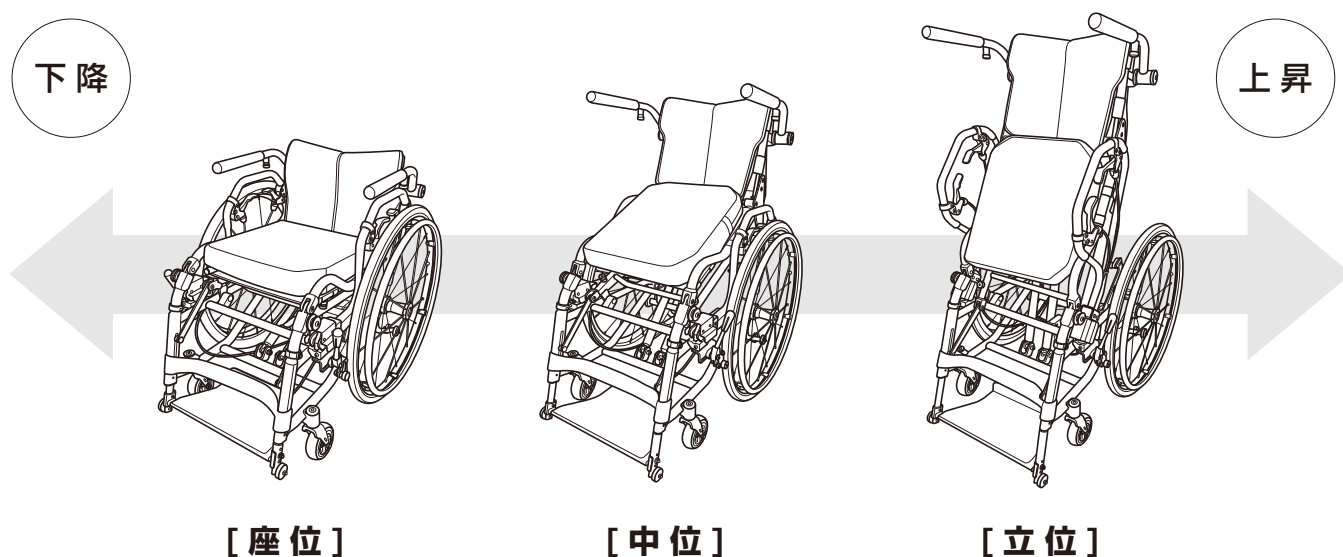
〔 立位 (スタンディングポジション) 〕

使用者の立位を保つことができる状態です。

この状態では、ハンドリムに手が届かなくなり、駆動輪を操作した車いすの移動ができなくなります。

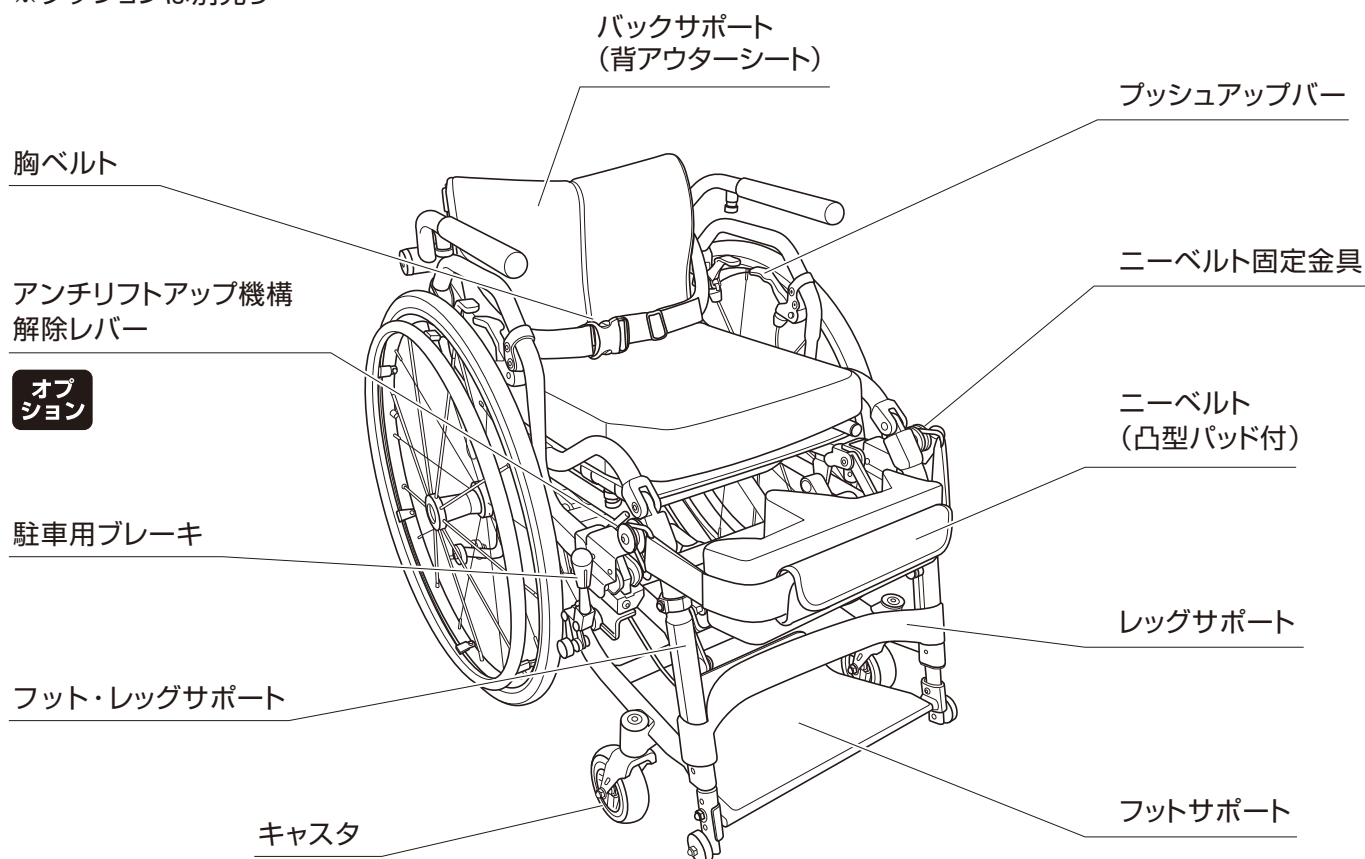
駐車ブレーキをかけ、ニーベルト (凸型パッド付) / 胸ベルトを装着して、水平かつ平坦な場所で、車いすが安定していることを確認してから操作してください。

※本書では、座面を最も起こした状態を「最大立位時」と表記します。

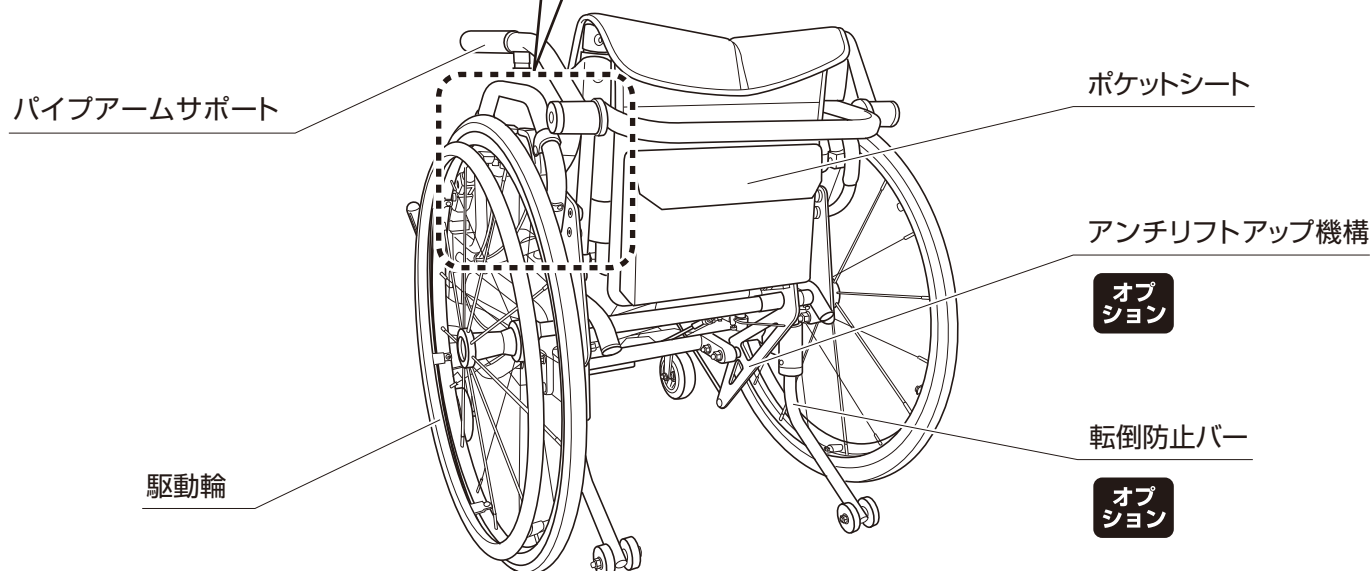
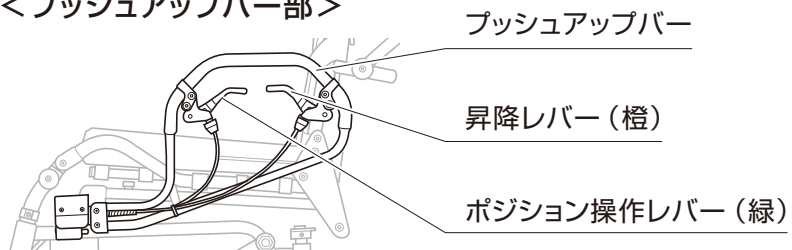


各部のなまえ

※クッションは別売り



<プッシュアップバー部>



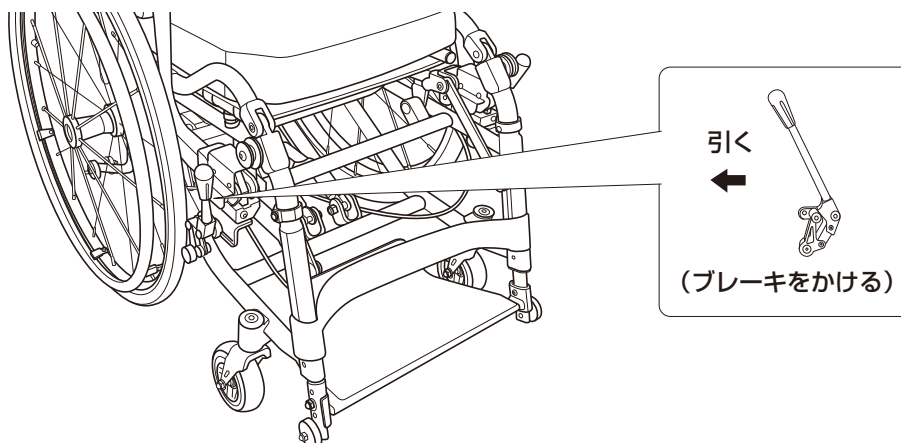
使いかた

ブレーキのかけかた

⚠ 警告	・ 乗り降りの際、停止時および座面の昇降時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていると車いすが動き出し、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。 ・ 駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 ・ タイヤの空気圧の低下、摩耗に注意してください。タイヤの空気圧が低下したり摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。空気の補充をしてもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。
------	--

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者もしくは介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。
駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



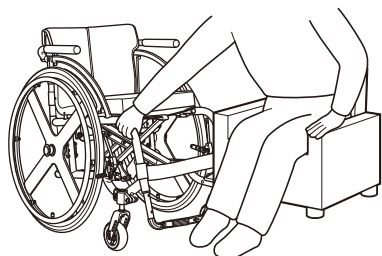
乗り降りのしかた

対マヒ使用者の場合

⚠ 危険	・ 乗り降りは必ず座面を最下位まで降ろした状態で行ってください。座面が傾斜していると転落し、事故やけがにつながる恐れがあります。 ・ 座面の昇降時は、必ずニーパッドと胸ベルトを装着してください。(⇒P.11)
⚠ 警告	・ 乗り降りの時は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動き出し大変危険です。 ・ プッシュアップバーに、横方向へ過度な体重をかけないでください。また、プッシュアップバーをアームサポートとして使用しないでください。プッシュアップバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。

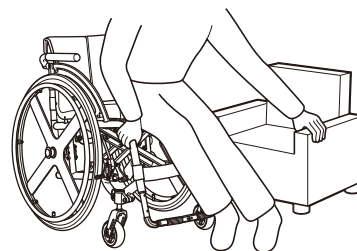
● 乗りかた

1 車いすを使用者の真横によせます。

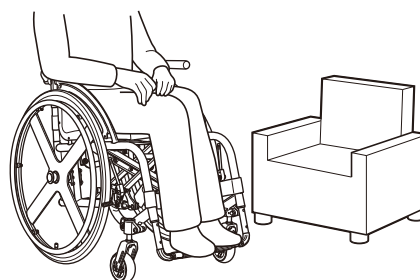


2 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

3 車いすをしっかりと持ち、腰を浮かせてゆっくり乗り移ります。



4 両足をフットサポートに乗せます。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

駆動輪の取り外し・取り付け

ワンタッチで駆動輪を外せるため、コンパクトに収納、持ち運びができます。

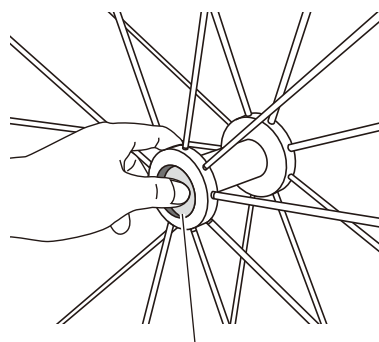
⚠ 警告

駆動輪が抜けないようにしっかりとロックされていることを確認してからご使用ください。駆動輪の差し込みが不十分な場合、車輪のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる危険性があります。

● 取り外しかた

1 駐車用ブレーキを解除します。

2 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車輪ごと駆動輪を引き抜きます。



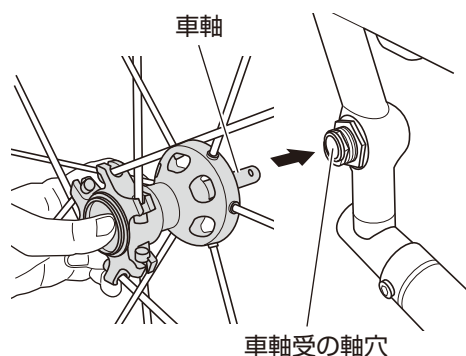
プッシュボタン

3 反対側も同様に取り外します。

● 取り付けかた

1 駐車用ブレーキを解除します。

2 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車輪を車軸受けに差し込みます。



3 反対側も同様に取り付けます。

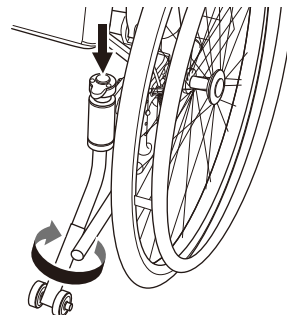
* 取り付け後は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜けないか確認してください。

転倒防止装置の格納

オプション

転倒防止装置の旋回軸上面を押し下げながら、内側に回しこんでロックさせます。

* 使用する際は転倒防止装置を手前に引き出しロックされていることを確認してください。



転倒防止装置のクリアランス調節

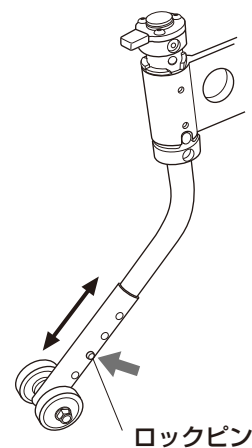
オプション

転倒防止装置と地面のクリアランスを調節することができます。

* 転倒防止装置は左右とも地面のクリアランスが同じになるように調節してください。

● クリアランスの調節

- 1 ロックピンを指で押し込み、転倒防止装置を前後にスライドさせて適切な位置に調節して、固定する穴を決めます。
- 2 手順1で決めた穴にロックピンを固定し、確実に固定されたことを確認します。
- 3 もう片方の転倒防止装置も同じ位置に調節します。



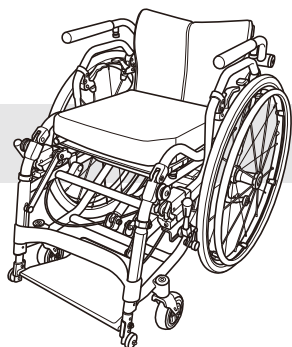
座面の昇降のしかた

車いすの座面を任意の高さに昇降することができます。

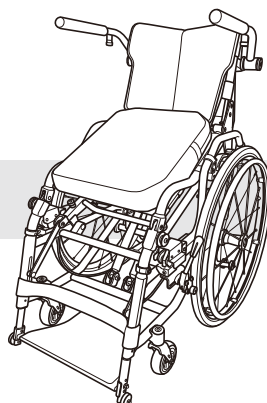
(P.6「座面の昇降機構について」参照)

下降

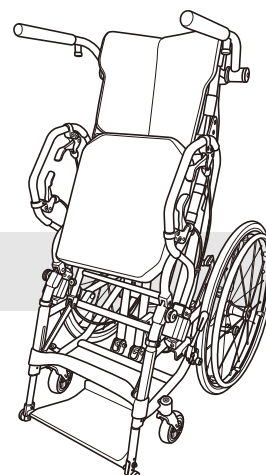
上昇



〔座位〕



〔中位〕



〔立位〕

⚠ 危険	- 座面の昇降は、両輪の駐車用ブレーキをかけ、ニーパッド／胸ベルトを装着して、水平かつ平坦な場所で、車いすが安定していることを確認してから操作してください。 車いすが予期しない方向へ動き出したり、座面昇降時に車いすから転落して、事故やけがにつながる恐れがあります。 - 乗り降りは必ず座面を最下位まで降ろした状態で行ってください。座面が傾斜していると転落し、事故やけがにつながる恐れがあります。 (アンチリフトアップレバー装着車の場合) 車いすによる移動時は、必ず車いすを最下位状態にして、座面の昇降のロックをかけてください。 ロックがかかっていないと空車時に不意に座面が上昇し、事故やけがにつながる恐れがあります。
-------------	--

⚠ 警告	座面の昇降は、車いすの移動をさせながら行わないでください。
-------------	--------------------------------------

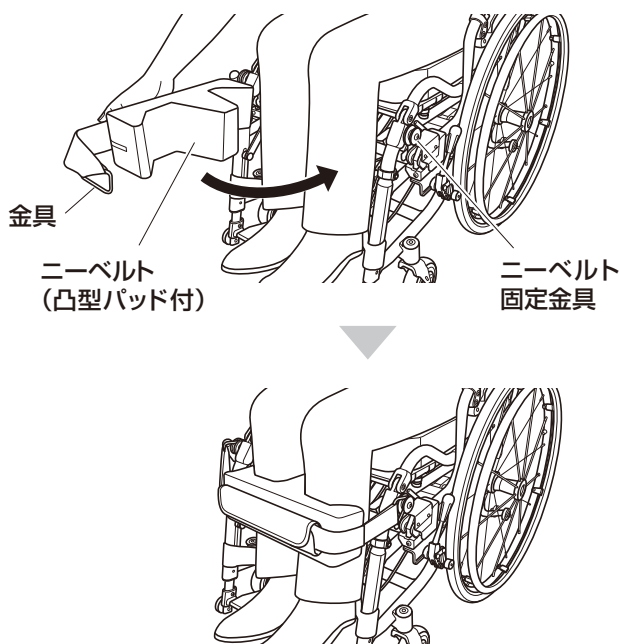
● 操作の前に

⚠ 警告	はじめてお使いになる際は、ニーベルト（凸型パッド付）と胸ベルトを使用者の適切な長さに調節してください。リハビリセラピストや販売店の指導のもと調節することをお奨めします。
-------------	---

1 車いすに乗車したら、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

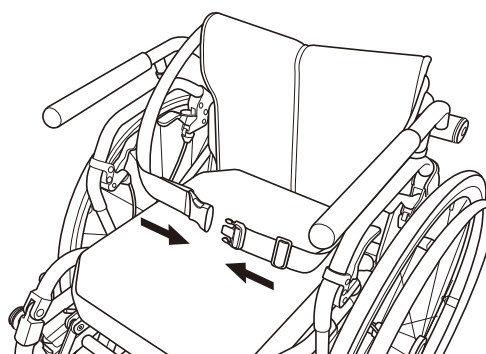
2 ニーベルト（凸型パッド付）を装着します。
ベルト両端にある金具を、車いすの両側にあるニーベルト固定金具に引っ掛けて固定します。
ベルトがきつい／ゆるい場合は、ベルトの面ファスナーを貼り直して、長さを調節します。

* 目安は使用者のひざ下にパッドが当たる位置です（状態に合わせて調節してください）。



3 胸ベルトを装着します。
バックル部分を差し込んで固定します。

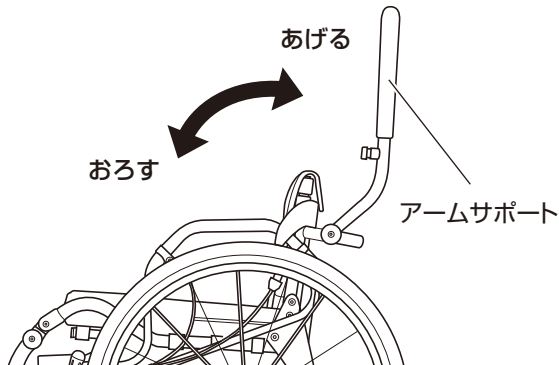
* 目安は握りこぶしがひとつ入る程度までゆるめますが、使用者の状態に合わせて最適な長さに調節してください。



4 身体がしっかり固定されていることを確認してください。

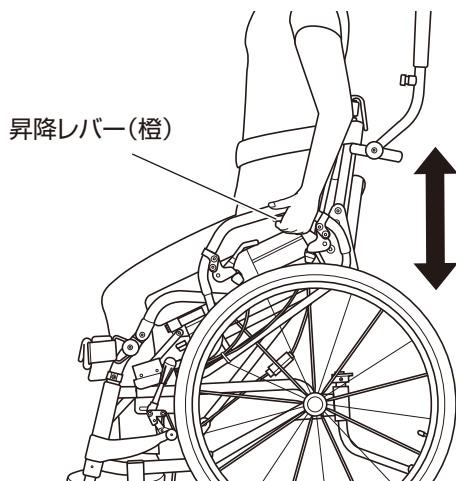
● 座面上昇のしかた

- 1** 左右のアームサポートを跳ね上げます。



- 2** (アンチリフトアップ機構装着車の場合)
アンチリフトアップ機構解除レバーを後方へ倒し、
ロックを解除します。

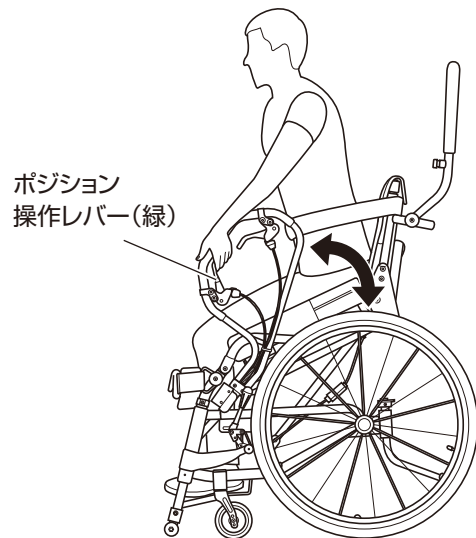
- 3** 昇降レバー(橙)を握ってプッシュアップすると、
座面が上昇します。
* 昇降レバー(橙)は左右についていますが、どち
らか片方だけ握っても昇降の操作が可能です。



- 4** 座面の位置が決まったら、昇降レバー(橙)を離し
ます。

- 5** さらに座面の高さを上げたいときは、ポジション
操作レバー(緑)を握りながら、プッシュアップバー
を前方に引き上げます。

* プッシュアップバーは座面の高さに応じて、3段階
に切り替えることができます。

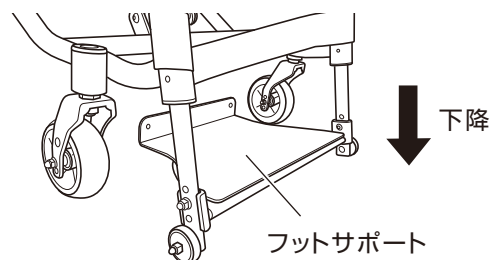


- 6** この状態でもう一度昇降レバー(橙)を握って
プッシュアップすると、さらに座面が上昇します。

- 7** 位置が決まったら、昇降レバー(橙)を離します。

- 8** 左右のアームサポートを降ろします。

* 座面上昇と連動して、フットサポートが下降
して地面に近づきます。
これは[立位]時に車いすが前方に倒れること
を防止するための機構です。



⚠ 警告

(アンチリフトアップ機構装着車の場合)

アンチリフトアップ機構は、[座位]の状態のみ機能します。[中位][立位]の状態ではロックする機構はありません。充分注意して操作してください。

● 座面の下降のしかた

- 1** 左右のアームサポートを跳ね上げます。
- 2** ポジション操作レバー(緑)を握って、プッシュアップバーを操作しやすい位置に合わせます。
- 3** 昇降レバー(橙)を握りながら、プッシュアップバーをつかんで、座面を下降させます。
* 必要に応じてプッシュアップバーの位置を変えながら操作してください。
- 4** 位置が決まったら、昇降レバー(橙)を離します。

- 5** 左右のアームサポートを降ろします。

* (アンチリフトアップ機構装着車の場合)
座面を最下位まで押し下げると、自動的にロックがかかります。
ふたたび座面を上昇させる場合は、アンチリフトアップ機構を解除してください。

* アンチリフトアップ機構が解除できない場合は、座面が最下位まで下がっているか確認してください。
座面を最下位まで押し下げると、ロックを解除することができます。

各部の調節のしかた

フットサポートの高さ調節

フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。

使用する工具：4mm六角レンチ、10mmスパナ

△注意	フットサポートの高さ調節は必ず「座位」の状態、かつ使用者が乗っていない状態で行ってください。
-----	--

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 フットサポートパイプとフットサポートをつなぐボルトとナットを左右とも取り外します。

3 フットサポートを上下に動かし、適切な高さに調節します。

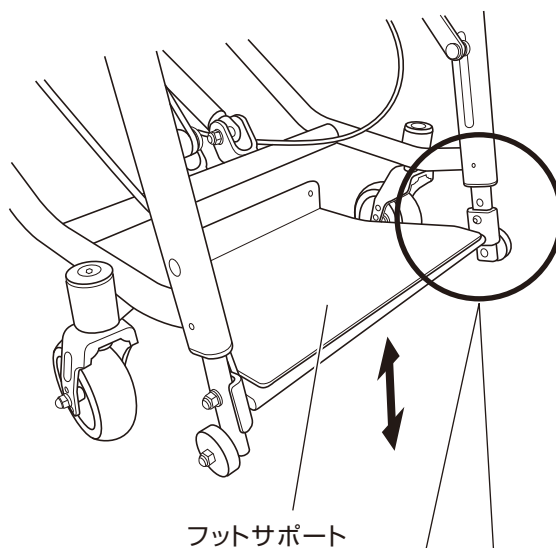
* ボルトを通す穴位置を、インナーポストの穴から選択してください。

* フットサポートの高さが左右同じになっていることを確認してください。

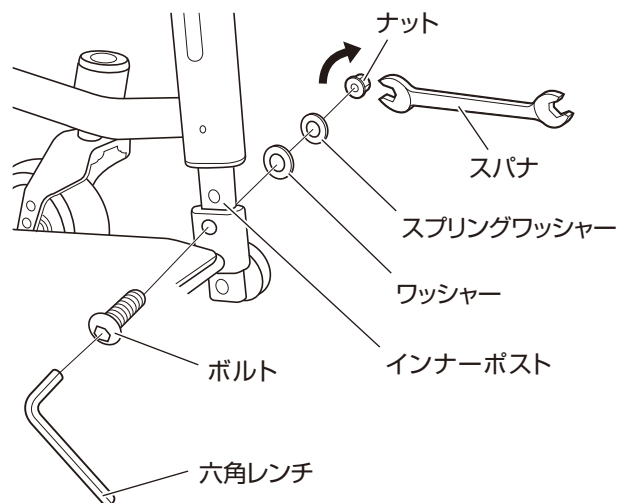
4 高さを決めたら、内側からボルトを差し込み、外側からワッシャー、スプリングワッシャー、袋ナットの順に入れて固定します。

締め付けトルク:6.0Nm

* 調節後、フットサポートがしっかり固定されていることを確認してください。



フットサポート



バックサポートの張り具合調節

バックサポートにはテンション式背シートを装備しています。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットし、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

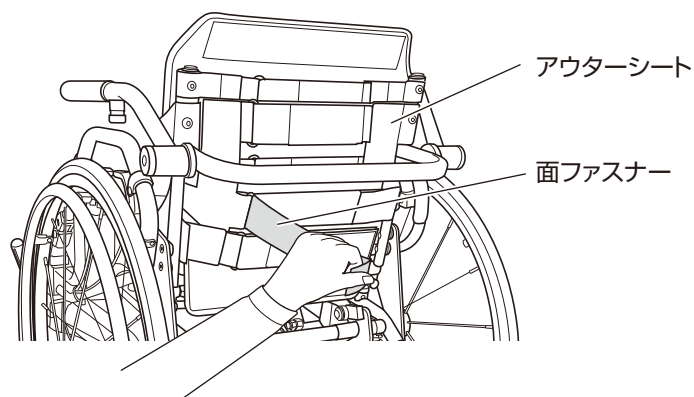
* 調節は使用者を乗せた状態で、使用者の状態を確認しながら行ってください。

⚠ 警告	張り具合の調節は必ず「座位」の状態で行ってください。 「中位」「立位」の状態での調節は効果が得られないだけでなく、使用者の体幹が安定せず、使用者が前方に転倒する恐れがあります。
--------------------	---

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 ポケットシートを取り外します。

3 下から上の順に、ベルトの面ファスナーを貼り直してベルトの張り具合を調節します。ヒップシートの張り具合も同様に調節します。

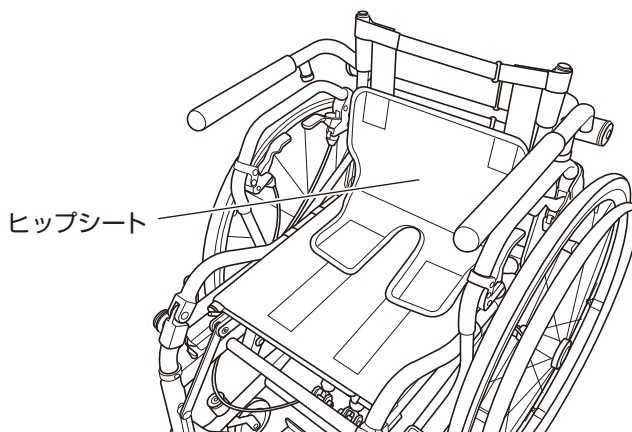


4 ポケットシートをもとに戻します。

* アンカーサポート機能のついたクッションと合わせて使用すると、より姿勢保持の効果が得られます。

* 過度の調節（ゆるめすぎ、締めすぎ）はかえって姿勢を崩すこととなりますので、充分注意して行ってください。

* リハビリセラピストまたは販売員のアドバイスを受けられることをお奨めします。



使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

点検の結果、作動不良や違和感を感じたときは、すぐに使用を止め、お買い上げの販売店または、最寄りの弊社支店、営業所へご連絡ください。

● 駆動輪の空気圧の確認

適正空気圧はタイヤ側面に明記されています。

△注意	駆動輪の空気圧が少ないと、駐車ブレーキがかからない場合や、かかりが悪くなる場合があります。空気圧には十分注意してください。
-----	---

● 駐車用ブレーキの作動確認

ブレーキレバーを操作し、ブレーキがかかることを確認してください。

● 各調節部分が固定されていることの確認

各調節部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

△注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
-----	---

それぞれ部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品 名	交 換 時 期
駆動輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。 しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート ／ベルト	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆びが発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● 樹脂部品のお手入れ

- ・樹脂部品の汚れは、中性洗剤で落としてください。

△注意	・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。 ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。
-----	---

● タイヤのお手入れ

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シート・ベルトのお手入れ

- ・シート・ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣類用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。

● 保管・収納について

- ・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温が上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

飛行機へ搭乗される場合

本製品にガススプリング(ガスダンパー)が使用されていることを、事前に利用予定航空会社または旅行代理店へご相談ください。

走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認したうえで、停車せず通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- ・クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車椅子を走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。充分注意してご利用ください。
- ・エスカレーター(車いす対応エスカレーターは除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

車いすの持ち上げかた

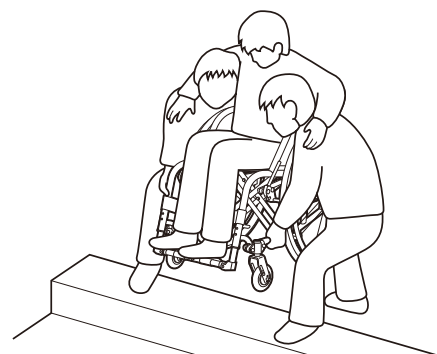
⚠ 警告

車いすを持ち上げる場合は必ずフレームを持ってください。駆動輪、パイプアームサポート、プッシュアップバーを持って持ち上げると、車いすの破損や落下、転倒による事故につながる恐れがあります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかりと持ち上げるようにしてください。

* 使用者の両腕をそれぞれの介助者の方にかけて、持ち上げる際の介助者の負担が軽くなります。



困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症 状	確 認 点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。
	車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	傾斜面の低い側にあたる駆動輪をより強く回してください。
	駆動輪の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。	左右の駆動輪を適正な空気圧に調節してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	キャストの回転に左右差がありませんか。 キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	キャスト、駆動輪の計4輪がきちんと設置していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪の空気圧は適正ですか。	駆動輪を適正な空気圧に調節してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	駆動輪のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押さえが主輪にきちんと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
駆動輪に空気が入らない。 すぐに抜ける。	適正な空気圧で補充していますか。	駆動輪を適正な空気圧に調節してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	タイヤ、チューブのパンク、バルブが消耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。

症 状	確 認 点	対 処
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するアクセサリなどは、駆動輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・消耗・汚れ・油さけなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
座面の昇降ができない。 座面の昇降の動きが悪い。	座面の昇降のロックがかかっていませんか。 (オプション・アンチリフトアップ機構) 装着車	座面を最下位まで押し下げ、アンチリフトアップ機構を解除してください。
	昇降レバーのワイヤーチューブが折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取り回しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	昇降レバーのワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買上の販売店、または弊社へこの商品の品名と故障状況をご連絡ください。
- ・ 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保 証

- ・ 補償内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、お買上の販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

本製品の廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元



株式会社 ミ キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号